

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101540		
法人名	有限会社 アンビション		
事業所名	グループホーム あすなろ	ユニット名	1号棟
所在地	〒311-1121 茨城県水戸市島田町3403-1		
自己評価作成日	平成21年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年2月8日	評価確定日	平成22年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様、ご家族様、スタッフが家族のような存在になれるような支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

代表者は介護の質を高めるとともに職員の資質の向上に努めている。 地域住民との係わりを大切にし地域密着型サービスの意義を踏まえた支援を実践している。 職員は利用者一人ひとりの状態を把握しきめ細かな支援を行っている。 食の安全にこだわり食材は国産品を使用している。 事業所での利用者の生活の様子を毎年ビデオで記録し利用者や家族等に公開している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人一人が理念を共有し実現に向けてサービス提供に努めるようにしている。	「島田の人情と自然に囲まれ、暖かい陽があたり、家庭的な時間（とき）が流れ、思いやりのある介護（支え）を提供いたします」との事業所理念をつくっている。 職員は名札の裏に理念を書き常に携帯し管理者と共に支援にあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には積極的に参加している。又、事業所の行事にも町内の方をお誘いしている。	事業所は町内会に加入し地域の祭りや運動会、清掃活動に参加しているほか、事業所の納涼祭やクリスマス会に地域の人々を招待している。 近隣住民から季節の野菜のお裾分けをもらったり、利用者と職員が直接畑やハウスに行き収穫を楽しみ地域の人々と交流している。 地域の花火大会に事業所が場所を提供し地域の人々と一緒に見物している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の地域との関わりの中で認知症の説明やケアの有り方等の講習も行い、地域との意見の交換も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た様々な意見を参考にサービス向上に努めている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、有識者、近隣施設職員、法人役員、事業所職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況を報告したり認知症の説明やケアのあり方などについて話をしているほか、その時々々の社会情勢に合った話題について話し合っている。 委員から依頼された防犯ポスターを掲示するなど、地域とのつながりを密にしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも意見交換する機会を作るようにしている。	市担当者に事業所の実情や利用者の状態などを定期的に報告するとともに、適切な助言を得ている。 市の関係部署以外でも地域の人口推移を把握したり、地域への広報活動で協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し拘束をしないケアを実践している。又、日中は玄関に鍵をかけず、安全面に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援している。	代表者や職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為とその弊害を理解している。 職員は外部研修や内部研修を受け、マニュアルを作成するとともに、日中は玄関の施錠を含め身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し虐待防止に努めている。又、施設内、外の研修を生かし虐待、拘束を行うことの無いようにサービス提供できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修にて学ぶ機会を設け、必要な利用者には行政機関との連絡調整を行うようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族の要望を必ず聞くようにし、それを反映させるように十分に説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を行い、運営推進会議には家族の代表が出席している。又、利用者からの意見・不満・苦情などは生活記録・申し送りにて職員で情報を共有し検討するよう努めている。	年2回の家族会で出席した家族等から意見を聴くとともにアンケートを実施し多くの意見や要望の集約に努めている。 利用者や家族等から出た意見や要望は申し送りノートに記録するとともに職員間で共有しその都度対応している。 介護相談員を受け入れている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングを行い、運営者、管理者、スタッフ間で意見交換の場を作っている。	管理者はいつでも職員の話聞く体制を取っている。 代表者や管理者は月1回ミーティングを開催し職員の意見等を聞く機会を設けるとともに、出た意見等を反映し、利用者毎に面会簿を作成したり、車の乗降時に使用するステップ台を用意するなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己査定を実施しておりスタッフ一人一人の業務に対する改善や実績を把握している。またスタッフ一人一人との個人面談も実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの研修、講習会に職員を動員しレベルアップを図っている。また、福祉専門誌、新聞等の情報や資料として定期的に購入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設見学や講師を招き他施設職員と共に勉強会を開きサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族情報を元に今までの生活歴を知り本人の意見を反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約までに何度も話し合いの場を設けて家族の不安点等をなくさせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族、ケアマネージャーとの連携を取った上でどのように支援していくのかを決めるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相互関係を大切にし、家族として信頼しあえるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互関係を大切にし、家族として信頼しあえるよう努めている。(感謝・ねぎらいの気持ちを表す)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院は今までかかっていた主治医のままにしておくようにしている。また、よく行っていた場所等には外出する機会を設けるようにしている。	かかりつけの理美容室を利用できるよう支援している。 利用者は家族等と彼岸やお盆の墓参り行ったり、時には職員が同行し支援している。 今までのかかりつけ病院の受診を支援しているため、馴染みの知人や旧友と再会することがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的な席替えをし、利用者同士の関わりを保っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなってしまった利用者様のご家族には手紙を送ったり施設の行事への参加をお誘いするようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	年に最低2回は介護計画書を作成している。利用者の方の希望は反映させるようにケアに望んでいる。訴えることの出来ない方にはスタッフ間で話し合い何を望まれているのか考えるようにしている。	職員は利用者や家族等から話を聞きながら、利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。 会話が困難な利用者に対しては行動や表情を観察するとともに職員で話し合い、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーからの資料や退院サマリーを有効活用し、また家族からの意見を重要視し、生活歴の把握に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを基に生活記録に記入し状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人の要望・意見を取り入れ、介護支援専門員を含めたチームで介護計画書を作成しモニタリングの実施をしている。	介護計画は利用者や家族等の希望を聴き、職員間で話し合い、医療関係者の意見を聞きながら作成するとともに定期的に見直し評価している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直ししている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を参考にし、センター方式のチェックシートの活用をし、介護計画の作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問、通所、短期入所、グループホームで利用者に合ったサービス提供が出来るようにケアマネージャーとの連携を図るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの保育園に年に2度施設にボランティアに来ていただいている。又、利用者の方の希望を聞きながらボランティアを取り入れるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は変更せず、家庭の時と同じ病院で受診している。また入居者や家族の希望があればそれに答えている。	かかりつけ医への受診は家族等と共に日常の生活状況を知る職員が同行している。 職員のみが付き添い受診した場合は、結果を家族等に電話などで報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	会社の看護師、また協力病院の看護師と健康相談や医療活用の支援を受けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院の為に入院先の主治医とホームへ戻るによりホームで何が出来るかを相談し、入居者がどの状態で退院できるかを家族を交え話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、スタッフとの間で話し合いを持ち、どこまで出来るかを確認したうえで全員が納得できる終末期の提供に努めている。	事業所は重度化や終末期に向けた対応指針や看取りに関するマニュアルを作成している。 利用者や家族等、管理者、職員で話し合い意思確認書や同意書を交わすとともに、医療関係者と連携しながら支援している。 事業所は看取りの経験があり、エンゼルケアまで実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しスタッフに研修を実施している。また、消防署主催の応急処置の講習を受けるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法を徹底し防火管理者を中心に対策、訓練を行っている。又、町内会との連携を図れるように、入所者、設備状況や訓練状況の報告も行っている。	地域住民の参加を得ながら年2回避難訓練を実施しているほか、職員で夜間を想定した避難訓練を実施している。 避難経路を確認し反省点などを話し合っている。 乾パンや飲料水などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報を持ち出し厳禁で保管しており、第三者にどうしても閲覧させる時は家族の同意を得ている。また、ファイルにはPマークを付け区別するようにしている。又、入浴、排泄時等の介助時にもプライバシーの保護には気をつけている。	職員は接遇研修を受講しているほか、利用者と話をする際には腰を低くし視線を合わせるなど、利用者の人格を尊重した対応をしている。 利用者のファイルはプライバシーを意味するPのマークをつけて他のファイルと区別するとともに、個人情報のファイルは所定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や外出等利用者の意見を反映させたものになっている。また、日々の生活の中で利用者一人一人のやりたいことを確認しながらケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが何をするのかを決めずに利用者の訴えを最優先に考えてケアにあたっている。利用者の希望にそってシフトを変更したりもしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットや毛染めは理容師のスタッフが対応したり、希望があるときは美容室に行く。かかりつけの理容室、美容室のある方はスタッフや家族の協力を得て対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みに対するアンケート等の実施や家庭菜園での野菜収穫を含め食事楽しめる為の工夫をすると共に、食事の準備や後片付け等はスタッフと利用者が一緒に行い、一人一人に合わせた仕事をお願いしている。	食事の準備は各ユニットで行い、献立は利用者の希望を取り入れて作成している。 食材にこだわり国産品を使用するとともに、米は地域産を使用している。 利用者は食事の準備や後片付けを無理なくできる範囲で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食とおやつの際等、水分食事量を記録するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方への声掛け、出来ない方への介助、夜間の義歯洗浄を行うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中だけでもおむつを使わないように排泄パターンの把握に努め利用者一人一人に合ったトイレ誘導等での排泄を心掛けている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに声かけや誘導をしながらトイレで排泄できるよう支援している。 おむつ使用の利用者も日中はトイレでの排泄を支援している。 トイレトペーパーの位置は利用者の体型に合わせて移動が可能になっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便の確認をし運動や水分量を調整するようにしている。それでも便秘が続く際は主治医に相談するようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者のニーズに合わせた入浴を第一に考え、それに合わせたスタッフの配置にしている。	毎日の入浴や寝る前の入浴など、利用者一人ひとり希望にそった支援をしている。 介護度が高い利用者も職員が二人で介助し安心して入浴できるように支援している。 入浴を拒む利用者に対して職員は声かけをしながら様子を伺い、時間をかけて入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使用者の生活習慣を崩さないように好きな時に休めるようにケアしている。また、身体の状態にあわせてスタッフから声をかけ休息を促すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はすべてスタッフが行うようにし誤薬のないように努めている。スタッフの介助にて内服中は完全に飲み終わるまで見守るようにしている。症状の変化見られる際には主治医に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の状況に合わせた家事や余暇活動を行うようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望する所はもちろん、なじみの場所等にも外出できるようにしている。又、家族等の協力も得ている。	職員は散歩や買い物などの日常的な外出を、利用者の希望にそって支援している。 季節ごとの花見や水族館など普段は行けないような場所でも、利用者の要望を聞き出かけられるよう支援している。 寝付けない利用者には夜のドライブを試みている。 利用者が昔住んでいた場所や馴染みの場所への訪問を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は出来ない方でもお金を少し持ちたいときにはいくらか渡すようにしている。スタッフで管理している方は希望があった時にすぐに渡せるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の好きな時間に使えるようになっている。家族から手紙が届いたときにはスタッフと手紙を書いたり電話したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節感が分かりやすいものを飾り付けして共用空間を作るようにしている。又、居間などは、換気や、温度調節もこまめに行い過ごししやすい環境作りを行っている。	居間の温度や湿度を1日4回測定したり、陽光をカーテンで調節し、利用者が快適に過ごせるように配慮している。 壁にひな祭りのタペストリーを飾るなど、季節感を採り入れている。 居間の棚には行事や利用者毎のアルバムがあり自由に見ながら利用者同士で楽しんでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長いすを座る場所意外に設けて、一人になれたり利用者同士のお話の場として活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使っていたものを持ち込んでいただけるように考慮し使い慣れたものや好みのものを生かせるようにしている。	利用者は居室にテレビや家族等の写真、位牌、使い慣れた椅子などを持ち込み居心地よく暮らせる環境づくりをしている。 職員は利用者の状態に合わせて居室に転倒防止のマットを敷くなど、安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等が分かるように目印となるようなものを付けるようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあすなろ

作成日 平成22年6月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	30	終末期ケアについて	終末期ケアの家族の認識	家族会等であすなろでの終末期ケアへの取り組みの説明	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。